



HU D&I ACTIVITIES

広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構 活動報告

VOL. 2
AUG, 2024

号令に時間がかかる教室 in 広島

◆日時

2024年8月10日(土)
12:20～、13:30～、14:40～

◆場所

教育学部K棟114 (広島大学東広島キャンパス)

◆参加者

52名

◆主催

ウェルビーイング推進室

◆実施目的と概要

吃音がある教員志望の学生が安心できる環境で模擬授業を行うことで、自信をつけるとともに、吃音について知らない生徒役の参加者に、吃音への理解を深めてもらう。



号令に時間がかかる教室 in 広島

教員を目指す吃音のある学生が模擬授業に挑戦します！
あなたも教員役で参加・生徒役で応援しませんか？

開催概要

日時：8月10日(土) 全3日開催
時間：12:20/13:30/14:40(90分)
場所：広島大学 東広島キャンパス K棟114教室
対象：全学年対象・メディア教材OKな方

タイムライン

12:20/13:30/14:40
開演前から自己紹介・
演題のあての返り(10分)
12:30/13:40/14:50
吃音についての
基本的な知識を学ぶ講義(10分)
12:40/13:50/15:00
吃音について生徒同士で
組になって話し合うグループワーク(20分)
13:00/14:10/15:20
まとめ(10分)

吃音とは？

誰に言葉が浮かんでも滑らかに発話できず、清らかに発話できないことがある発音障害。
全国に約120万人と推定されている認知や理解は十分ではない。

Q&A

Q.生徒役が人前で話す機会がありますか？
A.生徒役は自己紹介や発表はありません。
Q.どの時間に行っても内容は同じですか？
A.基本的には同じですが、ケーススタディのテーマが異なります。



教員役・生徒役募集！
詳細はQRコードから

主催：広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構
ウェルビーイング推進室
協賛：教育学部K棟114教室
後援：広島県教育委員会・広島市教育委員会

◆レポート

頭に言葉が浮かんでも滑らかに発話できず、音や音節、言葉が途切れたり繰り返されたりする発話障害である「吃音」。その原因はまだ解明されていませんが、言語処理や運動制御の調整に関わる脳内の神経機能の問題という指摘もあります。

吃音がある人の自信を支え、周囲の理解を促進するため、全国で活動を行っている東京在住の吃音当事者・奥村安莉沙さんと連携し、本学でも「号令に時間のかかる教室」を開講しました。

教壇に立ったのは、本学教育学部3年生で国語教師を目指している安藤結唯さんです。自己紹介に続き、吃音について講義を行いました。吃音は100人に1人程度の割合で見られ、言葉の繰り返し、引き伸ばし、詰まりといった症状が特徴です。一般的に、周囲は「落ち着いて」など話し方のアドバイスをしたり、不安そうな表情でプレッシャーを与えたりせず、話の内容に集中して聞く姿勢が望ましいとされています。これに加え安藤さんは「吃音当事者の思いは人それぞれであり、その人に合ったサポートが大切です」と語りました。講義では、吃音について意見を交換するグループワークも取り入れました。生徒役として参加した学生からは、「吃音について理解を深めることで、当事者の気持ちに寄り添った対応ができるようになりたい」といった声が寄せられ、吃音に対する理解と共感を深める貴重な機会となりました。

